

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 365 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2014.04.11（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1067 部\*\*\*\*\*

前回の発行から 2 か月ほど経ってしまいました。桜前線は関東地方を過ぎ、  
東北地方ではこれから見頃の様子です。山崎農業研究所の機関誌『耕 No.132』  
は、東日本大震災特集号となりました。記事の一部は <http://yamazaki-i.org/>  
から読むこともできます。メルマガ読者の積極的なアクセスよろしくお願ひし  
ます。

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 誰のための農政改革か 小泉浩郎

<山崎農業研究所 第 148 回定例研究会（予告）>

テーマ：新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

日時：2014 年 4 月 26 日（土）13:30~17:00

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

<編集後記> 大事なことってたいてい面倒くさい

---

<巻頭言> 誰のための農政改革——壊してはならない岩盤は何か

---

スイスで開かれた世界国際フォーラム（ダボス会議 2014/01/22）の基調講演  
で、安倍首相は「既得権益の岩盤を打ち破るドリルの刃になる。いかなる既得  
権益といえども私のドリルから無傷ではいられない」と世界に向けて叫んだ。

そのドリルの刃が、“農政改革”の名の下に「米政策」「農地政策」そして  
「農業団体政策」に容赦なく食い込んできている。

「米政策」の標的は「減反」である。減反（生産調整）廃止により、価格が  
下がれば生産性の低い農家が米作りを止め（家族農業の自然排除）その農地は  
担い手に集まり規模拡大が出来るというシナリオである。

「農地政策」の標的は、農地の所有・利用である。そこで目指されているのは、家族農業に代表される自作経営から企業の参入も視野に入れた大規模借地経営への転換である。「人・農地プラン」によって農業継続の線引き（家族農業の組織的排除）をし「農地中間管理機構」で「集積」、そして公募による大規模借地経営への「配分」が制度化された。

「農業団体政策」の標的は、まず農業協同組合である。株式会社化もとりざたされ、協同組合の本質にドリルの刃が向けられている。農業委員会もまたもっと自由な農地移動をと俎上にのぼっている。ここでも家族農業を守る視点の後退がある。

ドリルの刃は、アベノミクス、成長戦略、規制緩和、スピード感のある企業の参入を原動力とし、この瑞穂の国の岩盤さえ打ち砕こうとしている。

奇しくも今年は国連が定めた「国際家族農業年」である。そこでは、家族農業がもつ食の安全保障、食の安定的確保、就業機会、環境保全、コミュニティ、文化の伝承など様々な価値が評価され、社会の安全と安心そして安定の基盤とされている。

趨勢としての世界経済のグローバルな展開だからこそ、このくにの壊してならない岩盤は何か、国民的議論がいまこそ必要である。

小泉浩郎

山崎農業研究所事務局長

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<山崎農業研究所 第148回定例研究会（予告）>

---

テーマ：新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

日時：2014年4月26日（土）13:30～17:00

場所：NTC インターナショナル 会議室

東京都新宿区四谷 3-5 不動産ビル 5F 会議室

（地下鉄丸の内線 四谷三丁目駅 3分）

1. 紛争終了地域のコミュニティ再生と技術支援

NTC インターナショナル・代表取締役社長／岩本彰氏

2. 農産品振興と輸出ーブルキナファソを事例として

NTC インターナショナル／高木茂氏

3. アフリカにおける生活改善活動ー日本の経験を通じて

NTC インターナショナル／服部朋子氏

資料準備の関係から事前に下記へご連絡下さい。会員外の参加もお待ちしております。TEL：03-3357-5916（益永）

e-Mail：y.masunaga@ntc-c.co.jp

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.132』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

「\*」の記事は、山崎農業研究所の HP から読むことができます。

<http://yamazaki-i.org/>

【土と太陽と】<巻頭言>

里山と子供の成長ー地域の”担い手”を育てる場としての価値論◎千賀裕太郎

【第 146 回定例（現地）研究会】

里山再生と食の安全ー放射能汚染と戦う原木しいたけ栽培

研究会の概要\*

報告(1) 風土を活かすー原木しいたけと放射能汚染 ◎飯泉孝司\*

報告(2) 放射能汚染被害からの産地再生の取り組み ◎高橋恭嗣\*

識者からのコメント

(1)里山再生の意義をめぐって ◎塩谷哲夫\*

(2)里山の再生と持続的地域資源循環の回復 ◎熊澤喜久雄\*

【特別寄稿】

落ち葉を通じた福島原発事故後の

里山林生態系への放射線影響 ◎大久保達弘\*

【特集】養生の時代

3.11 福島原発事故後の『養生法』とはなにか ◎今村光臣\*

腐植前駆物質で土と体を守る ◎高味充日児\*

元気な身体は、生ごみリサイクル元気野菜作りから ◎吉田俊道\*

【連載】“生きもの語り”の世界から(4) ◎宇根 豊

---

<編集後記> 大事なこつてたいてい面倒くさい

---

「大事なこつてたいてい面倒くさい」。映画監督・宮崎駿氏の言葉である。  
NHK プロフェッショナル 仕事の流儀 宮崎駿スペシャル「風立ちぬ 1000 日の記録」で、宮崎氏は何度も「面倒くさい」とつぶやいている。

-----  
<http://www.nhk.or.jp/professional/2013/0826/index.html>

大事なものは、たいてい面倒くさい

宮崎のアニメーション作りは2年に及ぶ長丁場だ。300人に及ぶスタッフを動かしながら、1500に及ぶカットを1カット1カット仕上げ、完成へとにじり寄っていくその行程を、宮崎は“レンガ積み”に例える。

全作業の根幹となるのは、宮崎の書き下ろす“絵コンテ”。キャラクターの動きやセリフ、背景などを精緻に書き込んだ、いわばアニメーションの設計図だ。この絵コンテをもとにアニメーターがキャラクターなどの動きをつけ、美術が物語の舞台を描き、世界観を作り上げていく。さらに、キャラクターなどの色を決める色彩設計や撮影といった業界屈指のスタッフが宮崎アニメを支える。そんな彼らを2年間、最前線で指揮し続ける宮崎が日夜漏らす言葉がある。それは、

「面倒くさい」。

アニメーション制作は、実写と異なり、すべてを“無”から生み出さなければならぬため、風に揺れる草の1本1本まで描かなければならない。しかも少しでも手を抜こうものなら、それがスクリーンであらわになり、作品の品位をおとしめる。宮崎は、アニメーターが描いた絵を手直ししながら、四六時中、「面倒くさい」「面倒くさい」と漏らし続ける。だがその裏に、宮崎が70歳を越えてたどり着いた境地が上記の流儀だ。

「面倒くさいっていう自分の気持ちとの戦いなんだよ。何が面倒くさいって究極に面倒くさいよね。『面倒くさかったらやめれば?』『うるせえな』って、そういうことになる。世の中の大事なこつてたいてい面倒くさいんだよ。面倒くさくないところで生きてると、面倒くさいのはうらやましいなと思うんです」。

---

面倒くさいというのは、自分の頭で考えること、自分でみずから試してみること、挑戦と失敗をくりかえすこと……などと言い換えられるかもしれない。

ネット社会の罪をあげつらうのはたやすく、そこによりかかって何かものをいうのは、それこそ安易なように感じられて気がひけるのだが、それでもネットの世界が充実すればするほど「面倒くさい」ということを回避できるような、そんなふうに誤解しがちになっているような気がしてならない。

しかし「面倒くさい」ことをさけることは、「大事なこつ」を味わう醍醐味をすてること、「大事なこつ」から目をそらすことにも通じるのではないか。

原発事故について考えることは面倒くさい、アベノミクスについて考えることは面倒くさい、TPPについて考えることは面倒くさい、集団的自衛権の行使について考えることは面倒くさい、それらについて何か行動をおこすことはもつと面倒くさい。だが、面倒くさければくさいほど、そこに込められているこつの意味は深いともいえる。宮崎氏のこの言葉はいろいろな応用がききそうだ。

2014年04月11日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』  
(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考ーグローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 366 号の締め切りは 04 月 21 日、発行は 04 月 24 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 365 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.04.11（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*